

日時 : 2015年4月17日(金) 13:00 ~ 17:00

場所 : 塗料報知新聞社 会議室

出席者 : 分科会長 : 窪井要((有)久保井塗装工業所)、

副分科会長: 内山貴織(東和酵素株)、高橋大(株三王)、

魚谷英未(株アースクリーンテクノ)、河本謙一(株小泉塗装工業所)

幹事 : 平野克己(日本塗装機械工業会)

アドバイザー: 田村吉宣(株アースクリーンテクノ)、坂井秀也(坂井技術士事務所)

ゲスト : 藤井俊治(株三菱化学テクノロジー)、片山眞司(J&Sエンジニアリング株)、

高橋輝行 中川洋 小川智江(東京都環境局環境改善部化学物質対策課)、

望月徳三(東京ガスケミカル株)、高畑和幸((有)シーティータカハタ)、

高橋善之(大塚刷毛製造株)、吉野和彦(株明治機械製作所)、

鬼頭浩二(旭エレクトロニクス株)、白石公郎、古川浩文((株)サトー)

事務局: 有馬弘純、藤井謙二郎(塗料報知新聞社)

22名 敬称略

***** 議題 *****

1. 分科会長挨拶 (窪井)

今回は前回に引き続き定款の説明、会員の種類、会費、運営体制の話等あり、会としていよいよ体裁を整えていくようになりますのでよろしくお願いします。

2. 初参加者挨拶

東京都環境局環境改善部化学物質対策課 企画係 小川智江主任

揮発性有機化合物対策担当 中川洋

3. 議題

①HPIについて (高橋)

前回までの発表内容をインターネット上に仮アップ。現在、日本塗装機械工業会 HP 上にあるものをもとに作成。新たに、関係団体のバナーを入れ、会員専用ページを加える予定。あと1ヶ月程度で完成の見込み。

『塗装工学』のような記事検索やリンクなど話題を豊富にしたほうが良いのでは。

外部からの問い合わせについては? → 事務局か高橋が受けて幹事に振り分けていく予定。

②定款、今後の体制について (平野)

②-1 定款(前回に引き続き重要ポイントの説明)

会員の種類

団体会員、企業会員、個人会員、特別会員(行政・学術・学生等)とする。

会費

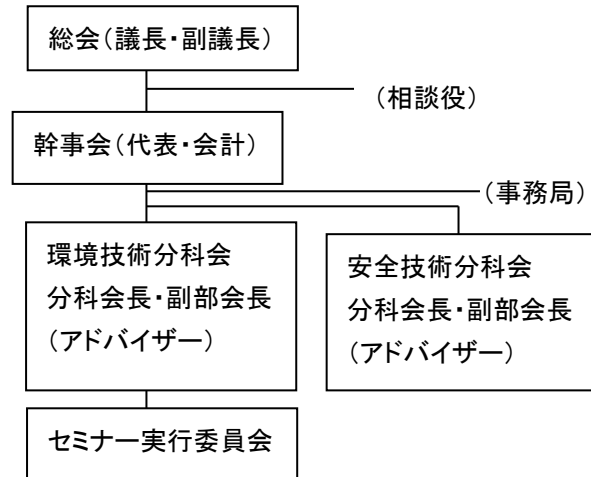
団体会員: 一口1万円(毎月)

企業会員: 一口5千円(毎月)

個人会員: 一口1千円(毎月)

会費の納入時期、方法などは会費徴収内規にて定める。

組織



②-2 体制(人事)

- 議長 木下真生(日本塗装機械工業会会長)
副議長 渡邊忠彦(日本パウダーコーティング協同組合理事長)
窪井要(日本塗装技術協会理事)
相談役 福田良介(日本パウダーコーティング協同組合専務理事)
代表幹事 平野克己(日本塗装機械工業会専務理事)
幹事 平野克己(日本塗装機械工業会専務理事) 窪井要(日本塗装技術協会理事)
内山貴識(日本塗装機械工業会理事) 高橋大(日本パウダーコーティング協同組合
監事) 岡田久佳(日本塗装機械工業会) 魚谷英未(日本塗装機械工業会)
石井信行(大塚刷毛製造(株)) 稲田建(九州工業塗装協同組合専務理事)
有馬弘純(塗料報知新聞社)
アドバイザー 田村吉宣((株)アースクリーンテクノ) 片山真司(J&Sエンジニアリング(株))
坂井秀也(坂井技術士事務所) 木下稔夫(東京都立産業技術研究センター)
奴間伸茂(日本塗装技術協会)
行政担当顧問 藤井俊治((株)三菱化学テクノリサーチ)

- 環境技術分科会 会長: 窪井 副会長: 内山 高橋
安全技術分科会 会長: 田村 副会長: 石井
セミナー実行委員会 会長: 内山 副会長: 高橋 岡田
広報担当 高橋 岡田
事務局 (会計兼任) 有馬 魚谷
会計監査 藤井(俊)

現在の協賛団体

日本塗装機械工業会 日本パウダーコーティング協同組合 九州工業塗装協同組合

総会を5月13日(水)に開催。

→発足当時のイメージとしては学術団体のようなもので、前提はボランティア。現場に出張し無償でゴミ・ブツの対策を講じるなど、何ものにも縛られない 正しさを追求する姿からスタート。しかし、それだけでこの会が存続するのかがむずかしいところ。

→QCDS(Quality Cost Delivery Service)という言葉にあるように環境だけでなく、コストも品質も追究できる団体になると良い。

→ネットである程度の情報が取れるが、あともう少しというところが提供できると良い。問い合わせに対する回答、出張は有料化にするなどの運営方法も考えるべきでは。

③補助金情報（平野）

③-1 サポイン

平成27年度のサポインが公募開始。公募期間は、4月13日から6月11日まで。

③-2 省エネ補助金

地域工場・中小企業等の省エネルギー設備導入補助金/最新モデル省エネルギー機器等導入支援事業(A類型)の公募が開始され、CEMAは証明書発行団体に登録された。東日本大震災以降の省電力化の流れを受けたもの。補正予算で約1千億円。1件当たり50万円以上1億5千万円を上限に中小企業には1/2の補助(大企業には1/3)。

詳しくは一般社団法人環境共創イニシアチブのHP(<http://sii.or.jp>)を参照のこと。(4/22で応募締切)

④セミナーについて（内山）

④-1 長野県セミナーの確認

5月22日(金) 1:30~4:00ころまで(株)NCC主催

田村氏、内山氏、魚谷氏の講演。次回、あるいは今後1日セミナー等も提案していきたい。

④-2 東京都VOC対策セミナー

7月31日(金) 都民ホールで開催することが決定。東京都環境局からの講演依頼

講演は環境局の他、安衛法で労働局に講演依頼中、あとはIPCOで。講演者は1~2名。

内容は、工場内塗装におけるVOC対策の基本、最近の話題、環境対策と最新技術などをお願いしたい。今回は塗装業のなかでもVOC対策が進んでいないとみられる自動車補修業界に案内を流す。発表用のパワーポイントの資料は環境局HPでオープンにする前提で作成してほしいとのこと。(東京都)

自動車補修とのことで山口工業様の名前も挙がったが、今回は田辺塗工所 田辺社長に内山氏より依頼することとなった。4月中に講演タイトルと講演者を東京都環境局へ連絡する。

④-3 日本海セミナー

(株)岡久 岡田専務が所用により欠席の為、今回進展なし。規模を縮小して8、9月頃に開催の意向。

④-4 九州セミナー

今年は宮崎県宮崎市内で9月頃開催の予定。

北九州から進化した形での開催を希望されている。講師は昨年同様5人程度を予定。

④-5 四国セミナー

中国・四国地方の4社を軸に開催の予定。昨年の九州セミナーをモデルとする。

④-6 ASTEC

本年1月末に開催されたASTECに初出展。今後もIPCO活動の情報発信の場を増やしていきたい。

⑤プレゼン — デジタルマークについて ((株)サトー 白石、古川)

従来のバーコード(JANコード、コード39)、QRコードは表面が汚れたら判別できない。

また、RFIDのようなICチップを用いたものも金属近くでは読めないなどの制約があった。

デジタルマークは形、大きさに依存しないため、ロゴやデザインに組み込むことが可能。偽造防止に役立つ。また、欠損や汚れに対しても強いので、現場の工程管理で活用できる。

粉体塗装ラインで活用している。汚れに強いのが強み。使用する用紙も1,000℃までの耐熱性がある。

⑥メヒコに行ってきました！！（窪井）

日系自動車部品メーカーの韓国法人のメキシコ工場へゴミ・ブツ対策、直行率向上の指導のため訪問。塗装に係る人員が250名と大規模な塗装ライン。KIA Hyundai マツダなどの自動車部品を取扱い、塗装品種は87品種ある。

短期間だったが、指摘事項、指導内容を素直に受け入れてくれたので十分な結果を出せた。

国も言葉も違うが、塗装で抱えている問題は同じ。我々のノウハウが海外でも生かせると確信した。

※次回分科会開催予定

第11回環境技術分科会 2015年6月18日(木) 13時～17時 塗料報知新聞社 会議室

————— 以 上 —————